

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

多可町長

市町村名 (市町村コード)	兵庫県多可郡多可町 (283657)
地域名 (地域内農業集落名)	中区 (鍛冶屋集落)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和5年12月23日 (第2回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地域は、比較的平地で南部から西部、北部にかけて日当たり良好なほ場整備田が広がる環境にある。67戸ある農家のほとんどが作業委託中心の地域で、将来的には後継者不足と担い手の高齢化などにより遊休農地の増加が懸念されることから、持続的に農地の利用を図るためには、新規就農者の受け入れや効率的な農地の集積、集約化を進めることが喫緊の課題となっている。

主に山田錦と黒大豆の生産が盛んで、一部環境保全型農業に取り組むに取り組む農家もいる。隣接集落とも農地が繋がっていることから、集落外の認定農業者等も区域内で耕作している。

また、村内のほ場整備が昭和52年～59年にかけて整備され、既に46年が経過し、水路及び畦畔、法面については老朽化が激しく、多面的機能直接支払交付金を活用した計画的な改修が必要不可欠な状況となっている。

【基礎データ】

- ・農家軒数 63軒(認定農業者2名、集落営農1組織)
- ・主な作物 水稻(うるち・酒造好適米)、黒大豆、一般野菜

(2) 地域における農業の将来の在り方

地域の特産である酒米・山田錦は、JAを通じて秋田県酒造共同組合と村米制度を結び「秋田村」と銘打って取引を行っているが、さらに地域と担い手が一体となり農地の集積・集約化を図り、農作業の効率化を進め、良質米生産への体制づくりに取り組んでいく必要がある。そのため、隣接地域の担い手や地域組織、法人などとの連携強化、合併化による広域的な農地利用の仕組みづくりが必要となっている。あわせて、省力化のためのスマート農業機械の導入についても検討する。また、これまでから実施している環境保全型農業について、近年需要が高まっている山田錦や黒大豆の有機栽培を継続する。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	30.3 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	30.3 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	0.0 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地中間管理機構を通じた貸付を進め、農会長を中心に農会が調整を行いながら担い手などへの農地の集積・集約化を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
農会への申出により、農家の意向を把握し、農地中間管理機構を通じ、担い手などへの貸し付けを進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
農地の大区画化及びパイプライン化、計画的な水路、畦畔、農道などの改修を進め、担い手などのニーズを踏まえた基盤整備に取り組んでいく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
近隣地域の担い手や地域組織、法人などとの連携強化、合併化などにより担い手を育成し、多可町、加西農業改良普及センター、みのり農協の指導を受けながら経営体の確保に取り組んでいく。新規就農者についても同様の指導を受けながら体制づくりを進める。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
水稻及び丹波黒大豆への航空防除の委託作業はJAみのりへ継続実施する。 将来的に、地域で防除作業などの委託作業が実施できる体制が整えばその時点で移行する場合もある。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①村内2kmに渡る鹿柵の点検、管理については、多面的機能支払交付金を活用しながら非農家も参加した体制で取り組みを継続する。
- ②水稻、丹波黒大豆の栽培については、兵庫県慣行の1/2(化学肥料及び農薬)の減化学肥料、減農薬を継続する。
- ③スマート農業については、費用対効果、省力化などを検証を行いながら導入を検討する。